

広葉樹を知る、使う、  
再生させる。

## 林野庁

広葉樹プラットフォーム構築に向け、  
ご意見・ご要望をお待ちしています。

皆様のニーズに応えられるようなプラットフォームの構築を目指し、  
その機能や組織体制などを検討しています。  
ご意見・ご要望がございましたら、メールにてご連絡ください。

専用メールアドレス [kouyouju-team@maff.go.jp](mailto:kouyouju-team@maff.go.jp)

林野庁「広葉樹の取組」Webサイト

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kouyouzyu.html>



◀ 2次元バーコードを読み込むと、  
Webサイトにアクセスできます。



# 広葉樹が持つ魅力・ちから

## 広葉樹はいのちを育み、支えています

広葉樹は、森林に暮らすさまざまな生き物の食べものや住みかとなり、日本の豊かな森林の生態系を支えています。

また、広葉樹、針葉樹を含めた多様な森林は、水を蓄えたり、災害を防いだりする役割があり、私たちの暮らしにも不可欠な存在です。

## 広葉樹は身近なところで活躍しています

広葉樹の木材は、色や香り、硬さなどがさまざまです。

この多様な性質を活かして、広葉樹は私たちの暮らしの色々なところで使われています。



## いま、里山林で起きている問題

里山の広葉樹は、かつて薪や炭、農具の柄、肥料用の落ち葉などに利用され、日々の暮らしや生業と深く結びついていました。

人の手により育成されたコナラやクヌギなどの木々は、20年程度のサイクルで伐採・利用され、独自の生態系を形成していました。

しかし、燃料革命などにより広葉樹が利用されなくなったことで、里山林の手入れ不足や放置が進行し、さまざまな問題が起きています。

## 獣害の増加

里山林に人が入らなくなったことにより、野生動物の生息圏が広がり、人の生活圏に接近してきています。この結果、野生動物による農作物被害や人身被害が増加しています。



## ナラ枯れ（木の病気）

コナラなどのナラ類は、細い段階で伐採を繰り返しながら薪や炭として利用されてきましたが、里山林が放置された今、大きく成長しています。この結果、太いナラ類の幹に住みつく昆虫（カシノナガキクイムシ）による「ナラ枯れ」という病気が流行し、多くのナラ類が枯れています。



## 竹林やササの拡大

竹やササは、道具や肥料利用のため、頻りに刈り取られていましたが、利用されなくなると驚異的な繁殖力で分布域を広げています。その結果、森に光が入らなくなり、かつての里山林にあった明るい環境に適応した生態系が脅かされています。



### 基礎知識

#### 広葉樹とは

広く平たい葉をもつ樹木。サクラ、モミジ、コナラなど。枝分かれして横に広がりながら伸びる性質がある。日本の森林の面積では約半分、樹木の種数では大部分を占める。

#### 針葉樹とは

針のような細い葉をもつ樹木。スギ、ヒノキ、マツなど。まっすぐ上に伸びる性質がある。建築用材などに使われるため、人が植えた森林（人工林）が多い。

### 日本の森林構成



# 広葉樹の利活用を通じて 里山林を再生する

人の暮らしと適度な関係性を保ちながら、  
里山広葉樹林の利活用を目指していきます。

## 里山広葉樹林の新たな価値を創る

### 生物多様性の回復

伐採・利用を進めることで、  
多様な森林を造成し、  
ネイチャーポジティブ（自然  
再興）に貢献します。

### 地方創生への寄与

多様な使い道のある広葉樹は  
それぞれの地域の産業や生活  
と結びつき、木工所などの再生  
や集落の活性化に寄与します。

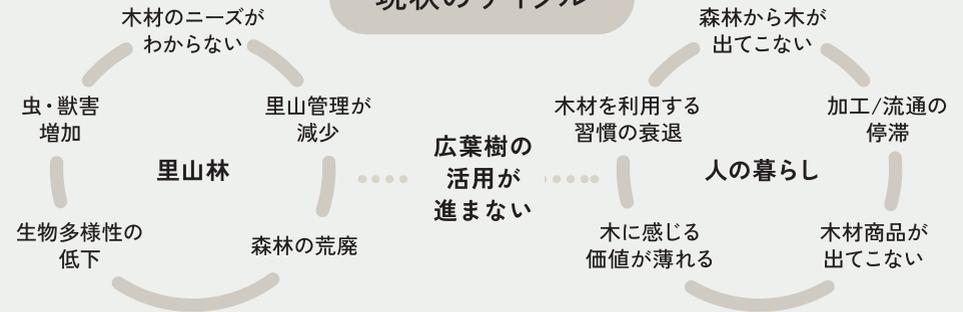
### 地球環境の保全

現在大半が輸入材になっている  
広葉樹材を国産材に置き換える  
ことで、長距離輸送に伴うCO<sup>2</sup>  
排出量の削減により地球温暖化  
対策を進めます。

### 産業の持続性向上

輸入材依存の体制を脱却する  
とともに、SDGsや消費者  
ニーズに応え、国内の経営の  
持続性にもつながります。

### 現状のサイクル



### 目指すサイクル



放置された里山広葉樹林の利活用を進め、  
適切に管理・再生することは、単なる資源利用にとどまらず、  
環境・地域・経済の多面的な課題解決につながります。

# 国産広葉樹の利活用と再生に向けた取り組み

## 岐阜県飛騨市の事例

飛騨市では、今まで活用されていなかった里山広葉樹を地域の重要な資源として捉え、川上から川下までの関係者が連携をとり、途切れていた広葉樹のサプライチェーンを再構築しようとする取り組みが行われています。

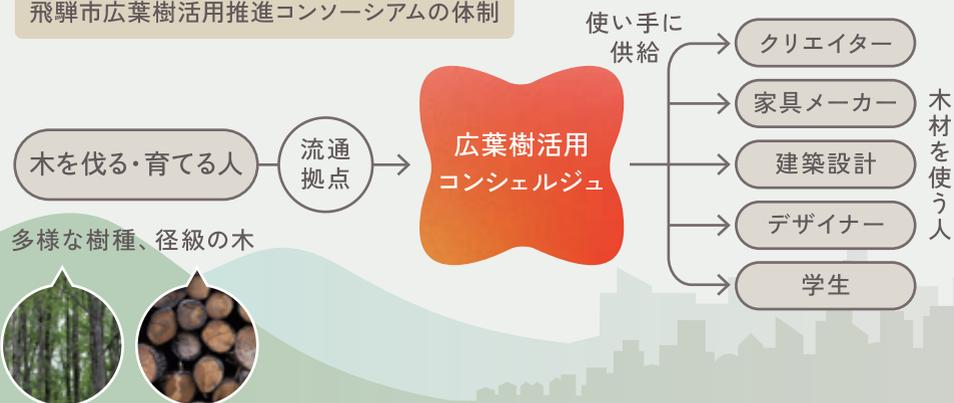
### 課題

飛騨市はミズナラやブナなど、豊富な広葉樹資源を有しています。しかし、市内の広葉樹は家具に不向きなサイズが多く、市内で伐採される広葉樹の94%がチップ用として安価に市外へ流出していました。飛騨の山に還元するためにも、地域の広葉樹に新しい価値を生み出す必要がありました。

### 取り組み

飛騨市は広葉樹のサプライチェーン構築のため、川上から川下の事業者と行政からなる「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」を立ち上げました。市内に新たな流通拠点を設置し、川中・川下をつなぐ「広葉樹活用コンシェルジュ」を配置。流通拠点の広葉樹原木と家具メーカー等の作り手をマッチングさせ、販路開拓に取り組むなど、広葉樹の新たな価値創造を実現しています。

### 飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムの体制



# 里山広葉樹の利活用・再生プラットフォームの設立に向けて

広葉樹の利活用を進めるには、供給側と需要側がお互いの理解をより深化させる必要があります。このため、基盤となる情報の共有や交流を促進する場としてプラットフォームの設立を準備しています。プラットフォームにより、里山林から生産される多樹種・小ロットの広葉樹材全てを適材適所で利活用できるサプライチェーン構築を目指します。

## 森林で働く人

森林組合、林業経営者、  
素材生産事業者 等

## 木材を利用する人

建築、内装材、家具、楽器、  
伝統工芸品、きのこ、  
薪炭に携わる事業者 等

## プラットフォーム 構成

## プラットフォームの 趣旨に賛同する人

生物多様性保全の貢献等に  
関心のある民間企業、  
消費者団体 等

## 官・学で 利活用に取り組む人

研究機関、大学、  
地方自治体 等

## 消費者・需要者への波及

エシカル消費、サーキュラーエコノミーを含めた  
ニーズに対する価値の創造・提供